

令和5年度

弘前市の地域課題への取り組み

地域の課題については、地域包括支援センターが地域住民や関係団体と一緒に解決に向けて取り組んでいます。地域だけでは解決が難しいものや、弘前市全体に影響するような課題もあります。それを弘前市の地域課題として市が中心となって解決に向けた取り組みを進めていますのでその一部を紹介します。



様々な年齢層に対する認知症への理解促進

認知症の人と家族を温かく見守る応援者を養成する認知症サポーター養成講座を開催しています。各地域でも、地域住民のみならず、企業や事業所等に向けて開催する件数も年々増加しています。令和3年度からは、認知症サポーター養成講座を受講修了した証として「認知症サポーターカード」を配布しております。



最近では、若い世代に対して認知症を理解してもらうため、小・中学生に向けた認知症サポーター養成講座も開催しています。実際に講座を受けてみて、「認知症を理解して共に生きていくことが大切だと感じた」、「認知症の人は悲しみや不安を抱えていることが分かった」などの感想が多く寄せられました。

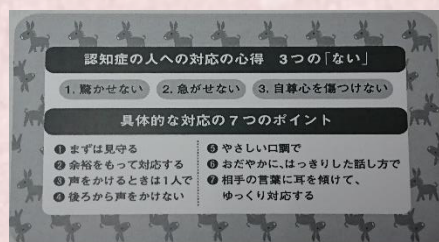
今後も、企業や事業所等はもちろんのこと、小・中学生といった若い世代への認知症サポーター養成講座を開催し、少しでも認知症を理解してもらえるよう取り組んでいきたいと思っています。

認知症サポーターカード

表



裏



～令和5年度～

弘前市地域包括支援センター 地域課題への取り組み

弘前市の地域包括支援センターでは地域ケア会議において、明らかとなった地域の課題に対し、地域住民や地域の関係団体と一緒に地域課題解決に取り組んでいます。



地域課題

「コロナ禍で外部との接触を避けてきたことで孤立化が進み、重症化した状態で発見されるもしくは亡くなってる事例が多く見られる」

背景

- ①高齢単身世帯が年々増加している。
- ②近所付き合いが少なくなるなど、地域コミュニティ機能が低下してきたため、見守る対象となる高齢者を見つけ出すことが困難になっている。
- ③高齢者が増加する中で、民生委員のなり手の減少や高齢化により、高齢者の見守り活動を十分に行うことが難しくなっている。

取組①



1つの市営住宅に対象を絞り、全戸訪問を実施しました。警戒している世帯が多いと感じた反面、受け入れが良好と感じた世帯もありました。
今後は町会や民生委員とも連携し、対象範囲を拡大して取り組む予定です。

取組②



認知症高齢者やその家族を支えるためのボランティアチームである「チームオレンジ」が誕生しました。今年度の活動としては、認知症カフェの運営手伝いを行いました。
今後は、孤立化を防ぐために、一人暮らしの認知症高齢者の見守り活動等を行う予定です。

※上記の取り組みは、地域ごとの課題に基づいて実施しているため、各地域包括支援センターの取り組み状況は異なります。